

## カリキュラム・マップとそれに基づく教育課程の検討結果(社会福祉専攻)

社会福祉学科社会福祉専攻の授業科目担当責任者が、各担当科目について、本学科のディプロマ・ポリシー (DP)の、1~5のうち、授業において身につけることを目標としている能力を挙げたところ、次のような結果が得られた。

DP1 を挙げた科目数が、29科目(科目数全体の41.4%)、DP2 が60科目(同85.7%)、DP3 が32科目(同45.7%)、DP4 が61科目(同87.1%)、DP5 が19科目(同27.1%)。

本専攻の学生に対して開講されている科目は、おおむねディプロマ・ポリシーを考慮した内容となっているといえるが、その度合いには差がみられた。単純に該当するDPの数が少ない項目はDPの達成度が低いということには繋がらない。しかし、「DP5 専門職業人としての自己管理能力や生涯学習能力を備えている」が、およそ4分の1の科目でしか身につけられないとするならば、これらの科目の重要性は増すことになり、科目担当者はそのことをより意識しなければならないだろう。このように今回のカリキュラム・マップ作成により、見える化されたことは意義があると考えられる。

科目担当者のコメントから得られた示唆については以下のようにまとめられる。

### ①開講時期に関して

おおむね適切な時期に開講されているとの評価であったが、いくつかの科目で開講時期の変更が提案された(「社会保障論Ⅱ」「ソーシャルワーク実習」「保育実習Ⅲ」とくに、「ソーシャルワーク実習」と「保育実習Ⅲ」に関しては、22年度はCOVID-19の影響もあって、開講時期を本来の時期とは違う時期に開講したことにより、一部の学生の混乱を招いた。学習効果を考慮して、適切な時期への変更を検討する必要がある。

### ②授業内容に関して

DPを達成するために授業の内容だけでなく、教材の工夫をしなければならないことが提案された。授業評価アンケートや卒業生アンケートの結果なども併せて、検討していくべきだろう。また、定期的にシラバスを再検討することも提案された(「児童・家庭福祉支援論」)。とくに、複数教員によるオムニバス形式の授業については、定期的に授業目的や達成目標の確認やすり合わせを行っておかなければ、DPの達成度に影響を及ぼすことになりかねないだろう。

### ③授業形態に関して

社会福祉教育の特性からして対面授業が基本であることは、各コメントからも支持が得られているところである。しかし、カリキュラム改正に伴い、実習期間の延長がなされた結果、授業回数の確保が課題となっているところである。実習期間については、オンデマンド型の授業のほうが、学生への不利益が少ないということも考えられる。今後も臨機応変な対応が望まれる。